Network & Footwork

メディアハウスA&S Vol.24

あけましておめでとうございます

A Happy New Year!

Bonne Année!

昨年老舗企業を含むいくつかの企業で、偽装問題が発覚し、企業の信用や価値、ブランドが問題になった。たまたま私は、一昨年秋から昨年の1月まで全8回、明治大学リバティアカディミーで「老舗の研究」（夜間）講座に出席する機会があった。

講師は同大学の大友純教授や明治学院大学の神田良教授ほかで、その中でおもしろかったのは老舗企業の神田「藪そば」の堀田康彦会長、カリーで有名な「新宿中村屋」の吉岡修一広報室課長、寝具の「西川産業」の元販促部藤田榮宏マネジャー、宮内庁御用達の和菓子の「虎屋」の「虎屋文庫」青木直己室長、のどの生薬で知られる「龍角散」の藤井隆太社長から講義を受けられたことである。そして、偽装を起こした企業と事例の老舗どこが違うのか、改めて考えさせる機会になった。講座の西川産業は欠席したが、その他4つの老舗の事例について、当該企業の関係者から古い資料やエピソードなどを学ぶことができた。

事例企業の創業は、虎屋が京都で室町時代1526年（大永6）年、創業以来480年とかなり古いく、その他はみな東京で、藪そばが1880年創業で、以来126年を迎え、中村屋は1901年創業で、以来105年、龍角散は創業は秋田・佐竹藩で江戸中期と伝えられ、沿革で1871（明治4）と定め、136年を迎えている。また、中村屋の1963年二部上場以外、みな非上場で同族経営である。

企業の信用、企業価値について、老舗企業に学ぶ

これらの老舗企業には、共通点がいくつかみられた。それを整理すると、

１． 環境に対して敏感である。組織としての学習能力と適応能力が高い。チャレンジ精神が旺盛で、新しい商品、開発や事業展開に意欲的である。

２． 強い結束力が強い。

３． 強力な独自性（技術や販売ノウハウ）を持つ。

４． トレランス（許容度、自由度）がある。企業内外との建設的な関係形成能力が高い。

５． 中村屋を除き、財務面は保守的である。規模拡大や急成長より着実な成長を目指す。

６． 時代が変わっても、創業者の理想や徳目（倫理）、経営に関する考え方を現代に生きる知恵として大切にし、商品開発や販売、人の育成などに生かしている。

結果として、事例の老舗はヨーロッパの代表的企業のように、企業信用、企業価値そしてブランド力が高い。商品だけでなく、店の雰囲気や接遇など、お客様を喜ばせるノウハウが非常に洗練されている。その上現代においても明確な経営スタイルを持ち、業界で独自のポジションを確立し、今もファンをつかんでいる。（裏へ続く）

これまで、私は13社の企業の創業者伝や会社の社史の発行を手伝ってきた。そして、事例の老舗の物語に登場する経営者たちと、手がけていきた創業者伝や社史に登場する経営者たちとの間に、特に上記の1〜5について共通性をみることができることも、興味深いことであった。

創業者伝・社史の「創業精神の相続」

http://www.m-h.co.jp/sougyou/index.htm

現代において、歴史を重ねてきた企業は、偽装に走ることなく、のれん（企業信用や企業価値、ブランド）を守り続けていくために、自らに厳しい倫理や家訓を守っている。さらに、単にヒット商品を守るだけではなく、企業自体が「しなやかで、したたかな企業」としての生命力を持ち、変化に対応しつつ、地道に時代を超える新たなファンを獲得してきた。こうして、時間によって磨かれた企業価値は、今日の経営者によってさらに磨き続けられていくのだ。（たかはし）

平成も、いよいよ成人式へ

平成も、いよいよ二十年を数えるまでとなりました。人間で言えば、おぎゃーと生まれた子どもが成人式を迎えるだけの時間が経ちました。

バブル景気と、その後の景気低迷と振り返れば、平坦な道のりではありませんでしたが、戦後の高度成長が始まった時期に生まれた身としては、それほど大きな変化とも思えません。

時計の針を戻してみて、昭和が始まってからのちょうど二十年、何が起こったかは言うまでもありません。大正は15年までなかった。明治二十年は、鹿鳴館に電灯が灯り、伊藤博文首相夫妻主催の仮装舞踏会が行われています。ちなみに日清戦争の勃発は、明治27年のことです。

明治や昭和は、世界全体が激動していますから単純に比べることができないにせよ、平成の変化は、さほどでもないように感じられます。

激動する世界で自立して生きぬいていく

ところが世界に目を移せば、この二十年はやはり激動です。平成元年には、中国で天安門事件が起こっている。ベトナム難民が急増し、九州・沖縄にも難民船が漂着する。ヨーロッパでは社会主義国の民主化の嵐が吹き荒れ、ベルリンの壁が崩壊しました。

あらためて記しておく必要もありませんが、いまや中国は世界経済を動かすエンジンのひとつとして重要な役割を果たし、国際舞台での発言力を増しています。ベトナムは、その世界の工場、中国を補完する役割を担う。

ヨーロッパでは、EUが旧東欧まで拡大し、ユーロ圏はますます範囲を広げています。ドイツのメルケル首相は旧東ドイツ出身です。

こうして見てみると、この二十年は、やはり激動の二十年でした。そして、この動きは、今年も続いていくにちがいありません。

日本も例外ではなく、こうした答のない世界に向かって生きぬいていく自立した大人であることを、ひとりひとりひとりが問われていくことでしょう（いいだ）。

有限会社メディアハウスエイアンドエス
〒108-0071　東京都港区白金台3丁目16番10-709号
PHONE （03）3449-0785
FAX （03）3449-0736
m-hmail@nifty.com
www.m-h.co.jp